

SHIMA 月刊ニュースレター

モーリシャス

2025 年 8 月



** 主要ポイント **

内政: モーリシャス警察幹部に対する捜査と逮捕

外政: ラングーラム首相がマダガスカルで開催された SADC 首脳会合に出席

二国間関係: ラングーラム首相が TICAD9 及び在京モーリシャス大使館開設式典に出席

経済: モーリシャス政府、物価安定基金の措置第一弾を発表

スポーツ: ラロードゥーズ選手が 2025 年東京世界陸上選手権大会出場権を獲得

政治

[国内]

●ワカシオ号 - 調査委員会の報告書

モーリシャス政府がワカシオ号事故調査委員会の報告書全文を公表するという公約の一環として、司法長官は同報告書を検察庁に提出し、8月1日に開催された閣議で確認された。検察庁は、2020年に発生した生態系への影響への法的措置について判断を下すと見込まれている。報告書が分析された後、政府は検察庁の立場について報告を受けることとなる。起訴が検討される場合、事故の責任の所在に関する捜査を促進するため、報告書の一部の写しがモーリシャス警察に送付される。

●バブーラム副大臣が保健省へ異動

8月7日、バブーラム男女平等・家庭福祉閣外大臣 (Anishta Babooram) は大統領令及びラングーラム首相 (Navin Ramgoolam) の助言に基づき、保健・健康副大臣に任命された。この異動は、同氏とナヴァール＝マリー男女平等・家庭福祉閣外大臣との間の緊張関係を受けたものである。

●モーリシャス警察幹部に対する捜査と逮捕



(写真提供: 5-Plus Dimanche)

7月下旬から8月にかけて、「報奨金事件」に関連して警察幹部らが逮捕された。この事件は、麻薬密輸対策部隊 (ADSU) の情報提供者への報奨金として割り当てられた約2億5000万ルピーの資金の不正管理に関する、金融犯罪委員会 (FCC) による大規模な調査の一環であり、法執行機関の複数のメンバーが関与している。これまでに逮捕された警察官は6名: ディール警視補、ガンガディン警視補、ムニアラート警部補、シーボラート巡査部長、ホッセン巡査部長、およびジャガイ警視。ガンガディン警視はマネーロンダリング

の暫定起訴2件、ジャガイ警視は「公職者による職権利用による利益供与」の暫定起訴3件の対象になっている。

一方、ディップ元警察長官(Anil Kumar Dip)は、2023年1月5日にグッドランドで麻薬密輸対策部隊(ADSU)による暴力を受けて死亡したジュリエット氏(Steeve Jacquelin Juliette)に関する司法調査の一環として、法廷に召喚された。2024年10月初旬、「ミスター・ムスタッシュ(Mr. Mostache)」による漏洩音声が公開され、ディップ警察長官と検視を担当したグンガディン医師(Sudesh Gungadin)との会話が明らかとなった。それはジュリエット氏の死因を自然死とするよう検視結果に影響を与えようとした疑いを示唆する内容であった。こうした証拠は警察捜査の信頼性を損ない、隠蔽工作であるとの疑惑を強めている。

●ジャグナット前首相が法廷に召喚



(写真提供:IONニュース)

ジャグナット前首相(Pravind Jugnauth)は8月19日、パンプルムス地方裁判所に出廷を命じられた。これは金融犯罪委員会(FCC)による捜査の一環であり、2025年2月15日に同委員会がジャグナット氏を逮捕した際、同氏の自宅の3つのスーツケースの中から発見された1億1380万ルピーについて、マネーロンダリング疑惑が浮上している。捜査当局が捜査継続のために更なる時間を要するとしたため、本件裁判は2026年1月27日まで延期された。

●ラングーラム首相に対する金庫事件



(写真提供:DefiMedia)

金庫事件におけるラングーラム首相(Navin Ramgoolam)に対する裁判が、8月7日に中間裁判所の金融犯罪部(FCD)で開始された。首相は「現金支払制限」違反を含む金融情報・マネーロンダリング防止法上の複数の条項違反の容疑で23件の罪で起訴されている。具体的には2009年1月から2015年2月までの6年間にわたり、現金6,380万ルピーを受け取ったとされる。この期間は首相在任期間(2005-2010年、2010-2014年)も含まれる。

2014年12月の総選挙で労働党が敗北した後、ラングーラム首相は2015年2月、マネーロンダリング及び共謀の疑いで逮捕された。警察による家宅捜索では、2億2000万ルピー(640万ドル)相当の各種外貨の新札が入った金庫複数、高級クレジットカード、処方薬錠剤が押収された。ラングーラム首相は後に釈放され、証拠不十分と検察側の事件の提訴遅延を理由に起訴は取り下げられた。

●基礎退職年金改革 - デモの実施予定

基礎退職年金の受給資格年齢の65歳への段階的な引き上げに対する抗議活動が続いている。第一に、「パ・トウス・ヌ・ペンション(年金を触るな)」プラットフォームは8月30日に第二回のデモを平和裡に実施。行進はサン・ジャンを出発し、ローズヒルのアラブタウンで終了した。「共同組合プラットフォーム」は9月20日、ポートルイスで大規模デモを実施予定。

一方、STOP(San Tous Ou Pension - San Tous Ou Dignité)(年金を奪うな／尊厳を奪うな)運動は、国連経済的・社会的及び文化的権利委員会事務局から、9月19日にジュネーブで開催される第78回委員会合会への参加を正式に招待された。同運動は、この問題に関する意識啓発を行う予定。

●前回総選挙後初の元財務大臣ラジオインタビュー

8月8日、パダヤチ前財務大臣(Renganaden Padayachy)は、2024年11月の総選挙後初となるラジオインタビューに応じ、2022年から2024年にかけての平均成長率が5%から6%であったことを根拠に、自身の「経済ブーム」主張を擁護した。彼は「経済状況報告書」の信憑性に疑問を呈し、さらに政府が社会一般拠出金(CSG)基金から110億ルピーを横領したと非難。パダヤチ氏は60歳での年金受給が基本的人権であると主張し、2025-2026年度予算案を非人道

的であり、社会契約を損なうと主張した。パダヤチ氏は複数の捜査に関連して逮捕されたが、不正行為を否定している。モーリシャス投資公社やモーリシャス銀行などの機関に圧力をかけたとの疑惑も否定し、それらの機関の独立性を強調した。

●候補者らは物議を醸す任命を辞退

政府による一連の人事は国民から強い批判を浴び、これにより、空港ホールディングス社会長候補のキュレ氏(Frederic Cure)、競争委員会委員候補のジュマン氏(Nabiihah Juman)、農業マーケティング委員会(AMB)委員長候補のラムロチュン＝ブンワリー氏(Meela Ramlochun-Bunwaree)ら候補者が任命を辞退した。キュレ氏はMMM党員であり、ベランジェ副首相(Paul Berenger)の娘婿でもある。ジュマン氏は労働党議員エشان・ジュマン氏(Eshan Juman)の娘であり、ラムロチュン＝ブンワリー氏はアルヴィン・ブーレル農産業・食料安全保障・ブルーエコノミー・漁業大臣(Arvin Boolell)の義妹である。

●エネルギー大臣、2035年までに再生可能エネルギー一目標を設定

8月11日、エネルギー・公共事業省がモーリシャス再生可能エネルギー庁(MARENA)と共同で主催する「2025-30年再生可能エネルギー戦略計画」検証ワークショップが開催された。政府は当初の目標年である2030年ではなく、2035年までに再生可能エネルギー比率60%達成を目指す持続可能なエネルギー転換を推進している。アシルバデン・エネルギー・公共事業大臣(Patrick Assirvaden)は、スマートシティとインフラの成長に伴い、2026年1月までに追加で100メガワットが必要であると強調した。エネルギー安全保障を強化するため、浮体式太陽光発電や風力発電所を含む複数の再生可能エネルギープロジェクトが開発中である。政府は国際再生可能エネルギー機関(IRENA)および世界銀行と連携し、ロードマップの作成と電力購入契約の見直しを進めている。再生可能エネルギーに関する5カ年戦略計画も策定済みであり、MARENA法に準拠している。



(写真提供: GIS)

●ロドリゲス島の政治的緊張

自治島であるロドリゲスを統治する政党連合である「解放同盟(Alliance Liberation)」の議員間の対立により、ロドリゲス地域議会(RRA)内で緊張が高まっていると報じられている。この緊張の中、ベランジェ副首相(Paul Berenger)はロドリゲス地域議会の解散と早期の地方選挙の実施を提案した。副首相の提案は賛否両論を呼び、RRA内の不満の高まりを理由に提案を支持する者もいれば、モーリシャス共和国の一部であり2001年10月1日以来自治権を有する島であるロドリゲスの政治問題への干渉と捉え、提案に反対する者もいる。

[外交・国際関係]

●駐日モーリシャス大使館開設



(写真提供: Google Maps)



(写真提供:サンデータイムズ)

2025年8月20日から22日にかけて横浜で開催された第9回アフリカ開発会議(TICAD9)への参加に際し、ラングーラム首相(Navin Ramgoolam)は駐日モーリシャス大使館の開設式典を執り行った。式典には、外務省の宮下匡之儀典長、菅正広駐モーリシャス大使、TICAD9及び大阪・関西万博へのモーリシャス代表団が出席した。

ラングーラム首相は、大使館開設に向けた日本政府の主導的な役割への謝意を表明。「当大使館は両国間の経済協力の推進、貿易・投資の促進、ビジネスパートナーシップ構築、そしてモーリシャスを日本企業のアフリカ投資における戦略的拠点として位置付ける上で重要な役割を担う」と述べた。首相は、この大使館開設がモーリシャスと日本の関係史における決定的な瞬間を画すると説明した。



(写真提供:サンデー・タイムズ)

ラングーラム首相にとって、この大使館開設は、モーリシャス政府がよりダイナミックな国際関係を構築し、戦略的パートナーとの緊密な連携を強化するという決定の一環である。「本日の行事が、TICAD9と大

阪・関西万博という他の二つの重要な行事と同時期に開催されることは誇りである。大阪・関西万博への参加機会を与えてくださった日本政府に感謝の意を表したい」と述べた。

●ラングーラム首相、SADC サミットに出席

8月16日～17日、ラングーラム首相(Navin Ramgoolam)はマダガスカルのアナタナリボで開催された第45回SADC首脳会議に出席した。同首相はマダガスカルのラジョエリナ大統領(Andry Rajoelina)主催の公式晩餐会に出席し、開会式でスピーチを行った。

特に、自由で公正な選挙を確保するため、SADC加盟国における選挙管理委員会の統合を呼びかけた。また、チャゴス諸島領有権問題において加盟国がモーリシャスに示した連帯を歓迎し、前モーリシャス政府から引き継いだSADCへの財政的コミットメントに言及した。

ラングーラム首相は米国当局者との二国間会談に参加し、9月30日に期限切れとなるアフリカ成長機会法(AGOA)の更新を提唱した。これは8月13日から開催されていた米国-SADC間の対話の一環である。

●ラングーラム首相、9月にインド公式訪問

ラングーラム首相(Navin Ramgoolam)は9月9日から15日にかけてインドを公式訪問する予定。9月11日にはウッタル・プラデーシュ州ヴァラナシにてインドのモディ首相(Narendra Modi)と会談を行う。会談では主に貿易、技術、観光等の戦略的分野における協力について議論される予定。

●リヴィエール・デ・アンギユルダム建設に関するアブダビ基金との協定

8月22日、ラングーラム内閣はアブダビ開発基金との融資契約締結を承認した。同契約はリヴィエール・デ・アンギユルダム建設の共同資金調達を目的とする。本プロジェクトの資金は主に、サウジアフリカ開発基金、アラブアフリカ経済開発銀行、アブダビ開発基金からなる湾岸金融機関であるコンソーシアムからの外部借入により調達される。本プロジェクトは、モーリシャス南部において増加する水需要に対応するため、持続可能な水供給の確保を目的としたもの。リヴィエール・デ・ザングイユ地域の社会・商業・農業・経済発展に寄与することが見込まれる。

●チャゴス諸島出身者代表团、バチカンで教皇レオ14世と面会



(写真提供: バチカンニュース)

モンジュラル神父(Garard Mongelard)をはじめとするチャゴス諸島出身者代表团は、8月23日(土)にバチカンで教皇レオ14世(Leo XIV)に謁見した。この会談は、チャゴス諸島出身者らが教皇に聖座の支援を求めていた2019年と2023年の訪問に続くもので、代表团は感謝の意を伝えるために訪れた。同行者として、この問題に取り組んでいる弁護士ギフォード氏(Richard Gifford)と、『最後の植民地』の著者サンズ氏(Philippe Sands)、チャゴス難民グループの代表バンクール氏(Olivier Bancoult)なども参加した。

●主権移譲のコスト

英紙『ザ・スタンダード』は8月11日、チャゴス諸島の主権をモーリシャスに移管する場合、英国に約350億ポンドの費用が発生する可能性があるとして報じた。これはスターマー英首相(Keir Starmer)が発表した34億ポンドの10倍に相当する。この試算は保守党が入手した政府保険数理局の公式文書に基づくもので、モーリシャスと英国間の合意をめぐる議論を再燃させている。野党保守党は、労働党閣僚が発表額を過小評価するために議論の余地のある会計手法を用い、議會を欺いたと非難している。

●モーリシャス代表团によるチャゴス諸島訪問計画

8月5日、ポートルイスの首相官邸において、モーリシャス代表团によるチャゴス諸島への初の公式訪問のロジに関する会議が開催された。この訪問は年内に実施される予定。ラングーラム首相(Navin Ramgoolam)が議長を務めた本会議には、ベランジェ副首相(Paul Berenger)及びグローバー司法長官(Gavin Glover)が出席。出発日、海上輸送の手配、

代表团の構成、英国議会による条約批准とのタイミング調整の妥当性など、ミッションの詳細について協議が行われた。

●モーリシャス出身の国連職員がブルキナファソでペルソナ・ノン・グラータを宣告される

ロドリゲス島出身のモーリシャス人であり、ブルキナファソにおける国連常駐代表であるフローレスメレツニャク氏(Carol Flore-Smrecznik)が、ブルキナファソ政府からペルソナ・ノン・グラータ(好ましからざる人物)を宣言された。ブルキナファソ当局は、同国における子どもと武力紛争に関する国連報告書が公表された後、同報告書をテロリスト集団とブルキナファソ国防軍の両方を同時に非難する偏った内容であると見なし、フローレスメレツニャク氏がもはや信頼できる対話者ではないと判断した。

●オーストラリア、COP31を招致

8月12日、チャムリー駐モーリシャス豪高等弁務官(Kate Chamley)はフェザーストン在ケニア・オーストラリア高等弁務官事務所気候問題担当参事官(Daniel Featherston)とともに、バグワン環境・廃棄物処理・気候変動大臣(Rajesh Anand Bhagwan)を表敬訪問した。両者は、インド洋諸国が直面する共通の環境課題について議論するとともに、2026年に開催されるCOP31のオーストラリア招致推進について協議した。

●国連プラスチック汚染サミット

ベランジェ環境副大臣(Joanna Berenger)をはじめとする代表团は、8月5日から14日にかけてジュネーブで開催された国連プラスチック汚染サミットに参加した。184カ国から3,700名の代表が集まったこの会議は、プラスチック汚染に関して初の法的拘束力のある条約の締結を目指したものである。

経済

●観光業の成長

モーリシャスの観光客数は伸び続けており、2025年7月の観光客数は129,206人を記録、前年比10.2%増となった。2025年1月から7月までの延べ訪問者数は788,115人に達し、観光業の回復力を裏付けた。デュバル観光大臣(Richard Duval)は、従来は閑散期とさ

れる7月の数値が、10月や11月といったピーク月と同等水準に達したことを指摘した。

● 価格安定化基金

8月16日、モーリシャス政府は国民の購買力を保護するため、物価安定基金の第一弾措置を発表した。

生活必需品の価格抑制に向け、当初8億5000万ルピーが充てられる。パン1斤の価格は2.60ルピーに固定され、4億5000万ルピーの補助金でまかなう。さらに8月26日からは粉ミルク、大豆油、チーズ、乳児用ミルク、紙おむつにも価格引き下げが適用される。

ベランジェ副首相は、国際的な価格動向は制御できないものの、政府は国内での不当な価格操作を防止し消費者を保護する決意を強調した。さらに、世界情勢が許せば、支援措置は当初の6か月間を超えて延長される見込みだと述べた。

● 外国為替市場: 8月モーリシャス銀行、2度目の介入

モーリシャス中央銀行は8月25日、国内外外国為替市場に1000万ドルを45.65ルピーのレートで注入した。8月5日には2000万ドルを45.70ルピーで売却。今年1月から7月までの総介入額は7000万ドルに達する。

モーリシャス銀行が発表した最新の月次報告書によると、ルピーは2025年6月までの12か月間でドルに対し1.9%、英ポンドに対し4.7%下落し、ユーロに対しては2.6%の減価を記録した。

さらに、7月1日に1ドル=45.39ルピーだったルピー・ドル為替レートは、8月初めに47.27ルピーに達した後、8月25日には46.16ルピーまで戻った。

● 金融政策委員会: 政策金利を4.5%に据え置き

金融政策委員会が8月13日、モーリシャス銀行にて開催された。シタネン総裁(Rama Sithanen)は政策金利を4.5%で据え置くことを発表した。ただし、インフレ率は2025年に4%に達すると予測されており、従来の予測値3.5%より若干高い水準となる見込みである。

● ムーディーズ: モーリシャスのソブリン信用格付けをBaa3に据え置き

ムーディーズはモーリシャスのソブリン信用格付けをBaa3で確認した。8月5日に公表された最新の信用意見書で、同機関は決定理由を説明し、格付け改善に向けた同国の対応策を示唆している。ただし格付け機関は同国の見通しを「安定的」から「ネガティブ」に引き下げた。

● 輸入: 上半期で1560億ルピー超の支出

モーリシャスの輸入は増加を続けている。2025年度上半期には6.8%増の1,560億9,000万ルピーに達した。主要輸入品には石油製品や食品類が含まれる。

経済外交

● TICAD9におけるモーリシャスの取り組み

ラングーラム首相(Navin Ramgoolam)は、8月20日から22日にかけて日本の横浜で開催された第9回アフリカ開発会議(TICAD9)にモーリシャス代表団を率いて参加した。代表団にはモーリシャスのビジネスリーダーや経済開発委員会(EDB)の代表団も含まれていた。TICAD9は、アフリカの首脳、アフリカ連合、世界銀行、国連開発計画(UNDP)等が一堂に会する主要な国際会議である。議論は、持続可能な開発、投資、経済変革、イノベーションなどの主要テーマに焦点を当て、アフリカと日本をはじめとする戦略的同盟国とのパートナーシップ強化を目的とした。



(写真提供: 内閣広報室)

会議期間中、モーリシャス代表団は、モーリシャスとの投資拡大および戦略的パートナーシップを促進するため、国際協力機構(JICA)や日本の民間企業関係者との会合を行った。

ラングーラム首相はまた、石破茂総理と首脳会談を行った。会談でラングーラム首相は、モーリシャスの

開発における複数の重要分野で日本が継続的に支援を提供していることに対し深い感謝の意を表明した。2013 年6月の TICAD5の一環として安倍晋三元総理と行った実りある会談を振り返った。ラングーラム首相はまた、政府間協定を通じたエネルギー分野、特に液化天然ガス(LNG)タービンの設置に関する日本政府の支援を要請した。さらに、排他的経済水域(EEZ)の監視を中心に、海上保安分野での協力強化を提唱した。また、日本との投資促進・保護協定(IPPA)の締結にも言及した。



(写真提供: サンデー・タイムズ・モーリシャス)

ラングーラム首相は全体会合2(経済)で演説を行い、輸出拡大と技術主導の変革に焦点を当てた明確な道筋を示す 2025-2026 年度政府計画を説明した。また人工知能、バイオテクノロジー、デジタル金融、ブルーエコノミーについても言及。小島嶼開発途上国(SIDS)として、モーリシャスは独自の視点を提供すると述べた。ラングーラム首相はまた、同政府は企業支援・投資保護・イノベーション促進を目的とした現代的な規制枠組みを構築したことを紹介した。日本の水産・海洋経済分野における専門性を称賛し、これらの分野における協力関係がアフリカ大陸、特に小島嶼国や沿岸国との連携強化につながることを強調した。

ラングーラム首相夫妻は、天皇陛下主催の宮中茶会に出席した。ラングーラム首相夫人(Veena Ramgoolam)は、石破佳子総理夫人主催の首脳の配偶者のためのプログラムの一環として、数多くの文化行事に参加した。

●大阪・関西万博モーリシャス館

2025 年大阪・関西万博では8月 12 日、モハメド経済・産業・投資・経済統合大臣(Moustoifa Hassani Mohamed)をはじめとするコモロ連合の代表団が、モーリシャス館を訪問した。



(写真提供: GIS Mauritius)

●AGOA 更新と米国との自由貿易交渉

アフリカ成長機会法(AGOA)は 2025 年9月 30 日に期限切れとなる見込み。その更新をめぐる不確実性は、モーリシャスの繊維産業など複数のセクターにとってプレッシャーとなっている。ミヤ産業・中小企業・協同組合大臣(Aadil Ameer Meea)は、アフリカ連合(AU)、南部アフリカ開発共同体(SADC)、東部・南部アフリカ共通市場(COMESA)と共に、モーリシャスが AGOA の更新を望んでいることを改めて表明した。ラングーラム首相(Navin Ramgoolam)は9月に米国を訪問し、輸出業者向けの優遇アクセス維持を目的とした米国との自由貿易協定(FTA)締結に向けた二国間協議を行う見込み。

モーリシャスは現在、米国による報復関税により15%の課税対象となっているが、AGOAが更新されない場合、モーリシャス製製品には追加で 16%の課税が適用される可能性があり、これにより総課税率は約 31% に達する見込みである。

●中国・モーリシャス関係

中国ビジネス界のハイレベル代表団が8月にモーリシャスを訪問した。ABC グループが主催し、アーチャン氏(Donald Ah-Chuen)が率いる代表団には、チョイス・インターナショナル・グループ、友芳国際、中国アフリカビジネス協議会、アフリカ広東ビジネス協会の著名な創設者、最高経営責任者、上級幹部らが参加した。一行はジタン金融サービス・経済計画大臣(Jyoti Jeetun)及びナーシンゲン外務副大臣(Rajen Narsinghen)を表敬訪問し、アフリカへの投資ゲートウェイとしてのモーリシャスの戦略的役割、ならびに中

国企業にとっての信頼できるパートナーとしての同国の位置付けについて協議した。

● インド・モーリシャス関係

インド・ビジネス評議会モーリシャス支部(IBC)とインド商工会議所連合会(FICCI)は7月 28 日、エベンのインド高等弁務官公邸において覚書(MoU)に調印し、インドとモーリシャス間の経済・商業関係を強化した。

8月6日、ラングーラム首相(Navin Ramgoolam)は、インド政府より国立運輸公社(NTC)に寄贈された電気バス 10 台の除幕式を執り行った。インドは計 100 台の電気バスを寄贈予定だが、その第一陣となるこれらの車両は、モーリシャスが、従来のディーゼル燃料から電気への移行を支援することを目的としている。

8月 20 日、クルカルニ国際人材協会連合(ICHR)事務局長(Vishwesh Kulkarni)がガンガパーサド教育・人材大臣(Mahend Gungapersad)を表敬訪問した際、インドとモーリシャスは人工知能(AI)を国家教育カリキュラムに統合する取り組みを再確認した。

スポーツ

● ジェレミー・ララロードゥーズ、東京世界陸上選手権出場権を獲得



(写真:L'express.mu)

モーリシャスのハードル選手ジェレミー・ララロードゥーズ(Jérémie Lararaudeuse)が、9月13日から21日にかけて東京で開催される2025世界陸上選手権大会への出場権を獲得した。ララロードゥーズは過去にも2022年および2023年の同選手権、ならびに2021年東京夏季オリンピックにも出場している。

● モーリシャス、第13回CJSOI大会2025で114個のメダルを獲得し輝きを放つ



(写真:GIS Mauritius)

モーリシャスは、8月1日から10日までセイシェルで開催された第13回インド洋青年スポーツ委員会(Commission de la Jeunesse et des Sports de l'Océan Indien, CJSOI)大会で、合計114個のメダルを獲得し、その存在感を示した。モーリシャスの選手たちは、複数の競技分野で金メダル計35個、銀メダル計35個、銅メダル計44個を獲得した。陸上競技ではモーリシャスが33個のメダル(金11、銀12、銅10)を獲得し圧倒的な強さを見せた。パラ陸上競技団でも13個のメダル(金8、銀4、銅1)を獲得し、大きな存在感を示した。バドミントンチームは5金・4銀・4銅の計13個、ボクサーは3金・3銅、サッカーチームは1金・1銅を持ち帰った。また、柔道チームは11個(1金・5銀・5銅)、重量挙げ選手は10個(3金・3銀・4銅)、さらに、水泳選手は金2、銀7、銅13の計22個、セーリングとバスケットボールはそれぞれ銅1個、バレーボールは金1個と銅1個のメダルを獲得した。新設のeスポーツ部門では金1、銀1、銅1のメダルを獲得した。

●ゴルフ: レディースクラシックがモーリシャスで開催へ



(出典: ttnworldwide.com)

インド洋地域で初開催となる欧州女子ツアーは、コンスタンス・ホテルズ & リゾーツが主催し、スポンサーのモーリシャス商業銀行 (Mauritius Commercial Bank, MCB) と共同で実施される。2026 年 5 月 1 日～3 日に開催予定、会場は、コンスタンス・ベル・マーレ・プラージュのレジェンド・ゴルフコース。この権威あるトーナメントには、20 カ国以上を代表する 120 名のプロ女子ゴルファーが参加予定で、総額 40 万ユーロの賞金をかけて、54 ホールストロークプレー形式で競い合う。

文化

● モーリシャス初のコーヒーフェスティバル



(出典: IG - mauritiuscoffeesfestival)

モーリシャス・コーヒーフェスティバルは 2025 年 8 月 30 日～31 日、モカにあるヴィヴエ・ビジネスパークで開催され、地元のコーヒー文化とコミュニティを称えた。Coffee & Co.主催によるこの島初のコーヒーフェスティバルは、コーヒー愛好家、生産者、バリスタが一堂に会し、モーリシャスの豊かなコーヒー文化を披露することを目的としていた。試飲会、ワークショップ、コンテストなど多彩な企画が展開され、地元コーヒーブランドの普及と、コーヒー生産・持続可能性に関する参加者の啓発を図った。

<大使館情報>

連絡先

住所：Embassy of Japan in Mauritius, Level 6, Tower C, 1 Exchange Square, Wall Street, Ebene,
72201 電話番号：(230) 460 2200, Fax:(230) 468 6612, E メール:japanembassy@mx.mofa.go.jp

当館ホームページ: https://www.mu.emb-japan.go.jp/itprtop_en/index.html

当館フェイスブックもぜひご覧ください! <https://www.facebook.com/JapanEmb.Mauritius/>
当館活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

【領事班からのお知らせ】

- モーリシャスに90日以上滞在される方は、**在留届**を提出してください。
(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)
- 「**たびレジ**」をご利用ください!
「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非ご活用下さい。
(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)
